

### (3) 基礎的・基本的な内容の定着を図る

#### 指導の手だて

本題材で定着を図ろうとする指導内容を精選し、それらの内容を各段階で定着させるための手だてとして、「学習の手引」、「鑑賞教材」、「表現の手引」、「ひらめきカード」を活用した。

これらの手だてによって、児童のものの見方や感じ方を豊かにし、鑑賞・表現に関する知識・理解を深めるとともに、基礎的・基本的な内容の定着と表現技能の向上を図った。

#### 学習の手引

物語を聞く時  
意識すること

みんなは、物語を読むのが好きなようです。作ったこともあります。今度は物語を聞いて、それを絵に表すのですから、次のことを意識して聞きましょう。

1.物語の各場面と状況：たくさんの情景が出てきます。時代、季節、時間、まわりにあるものや風景などを想像します。

2.登場するものの気持：登場するもの、あるいは登場する人は、どんな気持ちならぬか、を想像します。

3.物語の作者の気持：作者はどんな気持ちで物語を書き、なにをいいたかったのだろうか。これは物語の主題ともいえるものです。

絵を描く要素

絵を描くときに考えなければならないいくつかの要素があります。

1.自分の表現意図

絵を描くきっかけとして、描こうとする気持ちが必要です。それは、あることから得た感動なのです。その感動をどのように絵に表すかの自分の意図であり、その表現が絵の主題となります。

2.描くものとその周囲

絵は1枚の画面です。まん中も、まわりも、すみの方もすべてが絵の一部なのです。そのため、画用紙など、大きさを有効に生かして全体を構成します。絵の中にとなるものと、それを生かすためにまわりもしっかりと描かなければなりません。パック（背景）などは、色あいの調子だけ空間を感じさせる場合もあります。

3.描く視点と構図

視点の意味には、ふたつがあります。ひとつは、着眼点です。描くための目付けどころです。もうひとつは、目の高さや位置です。アリになった感じの低い目の位置、人間の目の高さ、鳥になった感じの高い目の位置などが考えられます。それによって、構図も変わります。

(アリの目)                    (人間の目)                    (鳥の目)



4.「もの」の形と大きさ：「もの」の大きい小さいは、くらべるものがあつて感じが変わります。意識して大きい感じにしたり、形を変形させたりもできます。そこが絵のおもしろいところで、表したいことを強く表すとするときなどに活用できます。



(どちらが大きい見えるかな)  
(直線でも丸いものが表せる)

5.色あいとその調和：ことばでは、わかりにくいけれど、色は一色だけでもそれぞれの感じがあります。二色以上が組み合わされるといろいろな効果が出てきます。自分の表現したい感じをよく出すために、色を調和させたり、対比させたりして工夫します。

描く紙と性質

今回使う紙は、1学期にやった「表現遊び」のときと同じものを準備しています。何種類か一緒に使うこともできます。

1.画用紙

みんながよく使う紙です。水彩絵の具にむいていて、じみやはかしができます。

2.ケント紙

じょうぶでつるつるした紙です。にじみやほかしの表現には、あまりわいていません。水彩をぬっておいて、その上にクレヨンなどで色をかぶせたあとに、かたいものでひっかいて下の色を浮き上がらせるともできます。これは、面用紙でもできます。

3.和紙

準備してある和紙は小さいので、それだけで絵にするわけにはいきません。それに描いたり、染めたりしたもの切りぬいて、別の紙にはって色をつけることができます。

4.色画用紙（黒）

切り絵にするときに使います。切りぬくわけですから、できたら台紙にはらなければなりません。台紙はケント紙にしてください。切り絵の白黒の表現だけでなく、白

### ② 鑑賞教材

右の写真は、美術関係の本から接写したものである。これらの写真をA3判の台紙に張り付け、題名、用いられた材料や技法等を明記したものを各班に配付した。この活用によって、遠近や明暗、主調色、主題の表出等の理解を深めることができるものと考えた。これによって、

鑑賞から表現への移行をねらうとともに技能の転移を図った。

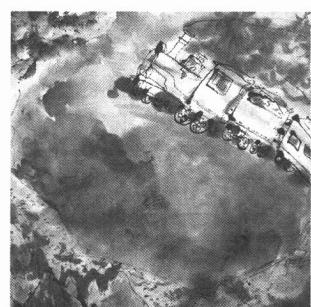
#### 鑑賞教材〔部分〕

(6枚内の2枚)



「きつねのお願い」(部分)

画用紙・水彩



「銀河鉄道の夜」  
画用紙・水彩・わりばし